

高知東道路の建設進む

4月から大津—中島間が暫定開通

南北道路の整備が遅れている本市にとって、開通が急がれている高知東道路（大津—介良間、延長七・〇）の工事が一部の区間で進み、早ければ四月にも、大津—中島間が暫定開通する運びとなりました。今後、都市計画道路の南国山田線や国道五十五号との接続など、工事の進展に期待が寄せられています。



部分開通する高知東道路長崎高架橋付近

高知東道路は昭和四十七年、国道三十二号の高知市一宮付近の交通渋滞緩和を目的に、国道のバイパスとして計画され、五十三年か

ら用地買取りに取りかかり、五十五年からようやく工事に着手。その後、四国横断自動車道の南国インターチェンジからの接続道路としての役割も持ち、重要な路線となってきました。

現在、大津バイパスから県道後免中島高知線の区間（一・六）の工事が最も進んでおり、国鉄線をまたぐ長崎高架橋も昨年完成、今舗装工事が急ピッチで進められています。四月には、暫定的に二車線（基本計画では幅員二十五

四車線）で、部分開通の見込みです。

また、大津バイパスから南へ国道五十五号までの区間は、五十八年度中に改良工事を済ませ、五十九年度供用開始を目ざしています。

県道後免中島高知線から北については、左右山で県道領石後免線の交差部分、領石の一部で改良工事が始まりました。しかし、笠ノ川、八幡地区などでは、国分川の改修問題でまだ話が煮詰まっておらず、地元との話し合いを重ねています。

建設省土佐国道工事事務所の話によると、全線開通は、六十二年

吾岡山の公園化四者で覚書調印

地元推進会の要望が実る

吾岡山の公園化のために必要な切り取り工事（再カット工事）に關する四者（県、市、日本セメント、吾岡山周辺環境整備推進会）間の協議がこのほどまとまり、二月十六日市役所四階応接室で「覚書」の調印式が行われました。

調印式には小笠原市長、岡崎空港整備事務所長、川野日本セメント次長（工場長代理）、地元推進会の長野会長らが出席。四部作成の

覚書に署名押印して、めでたく調印式を終えました。

これによって、五年間をめどに今年の秋から四十五号ラインまでの切り取り工事が始まり、跡地の公園化が実現する運びとなりました。

なお、公園の規模など具体的な施設については今後県、市、地元推進会の間で協議を深めていくことになっています。

度南国—大豊間の四国横断自動車道完成を目ざして努力していくとのこと。

一方、後免町の交通量緩和のためにも急がれている都市計画道路南国山田線は、高知東道路から接続し東へ南国自動車学校前までの区間の工事が行われていますが、五十八年度中の工事完成が少し遅れるもようです。

南北に走る道路の整備が遅れている本市にとって、高知東道路の開通は大切な役割を担っています。地元の方の納得と協力の上で、早い完成が望まれています。



地元住民も多く出席した「覚書」の調印式